





川柳を語る
田辺聖子
「川柳でんでん太鼓」

鶴形を紹介する資料はたくさんあるのですが、なかなか手に入らないですね。...

田辺聖子
「川柳でんでん太鼓」
われわれは鶴形の愛のフライドを忘れてはいけないと思ふ。...

五七五で思いを吐けば、川柳になるのか
(一頁からの巻き)
救急車員で呼ばばかやろう...

この日は、生活保護受給者「ケース」を相談相手とする自治体の「スワーカー」たちが読んだものだ。...

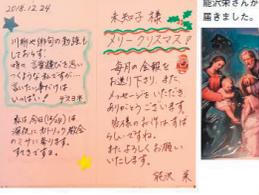


(右)ニューヨーク、ブロンクス区ハイネの記念碑 (左)モンマルトルの墓地にあるハイネの胸像

学を履きし迫害されていた詩人や作家たちも、ハイネを尊敬していたようです。

「本を焼く者は、やがて人間を焼く」
ハイネなら、私も助かろうとは思っていません。

ハイネが「本を焼く者は、やがて人間を焼く」と語り、先づハイネを焼書にしました。



能浜栄さんからクリスマスカードが届きました。



金子亮太さん (2月20日没)
〒386-1213 長野県上田市吉安堂字山王山 3462
TEL: 0268-37-1650



戦後再版された文庫版
土と兵隊
火野葦平

「叔父(岡田二桂)の思い出」
「和川柳」の根本思想は叔父そのもの

三方を山に囲まれ、ただ一方に海が人江のように開けているところ。
叔父は、山のうえから荒廃した長崎の街並みをよくスケッチしていたのを覚えています。



加賀の三羽鳥：眺鳥敏・高光大船・藤原鉄束

「加賀の三羽鳥と労働争議」
一方この当時に真宗教団の改革を唱えて活躍を生みました。

高光大船の逸話
ある時、若者に「仏法とは何ですか」と問われた大船は「仏法とは鉄道の反対だ」と答えた。

動した。眺鳥敏・藤原鉄束、高光大船などの「加賀」が起つていますが、この結社の関誌「加賀」(大正五・五・五発行)によりますと...



ドナルド・キーン氏 (By Wikipedia)

「百人余の従軍作家たち」
今年二月(四日)ドナルド・キーン氏が亡くなった。...

「戦場の中の」といってどうしようもない日本人が時につくりだした意見は反対に、作家たちは戦争に物発の際ほとんど一致して軍国主義者の背後に立った。

「川柳にみる戦時下の世相」
兵士は戦争を川柳で描いたか

目撃者として生きる弾丸の音を聴き、岩谷録朗
最新報。一羽の眼。弾丸が飛ぶ音で生きていたのを確認する。